

生活支援コーディネーター発行

地域の支え合い通信

麻生、篠路茨戸、太平百合が原、拓北・あいの里
地区版

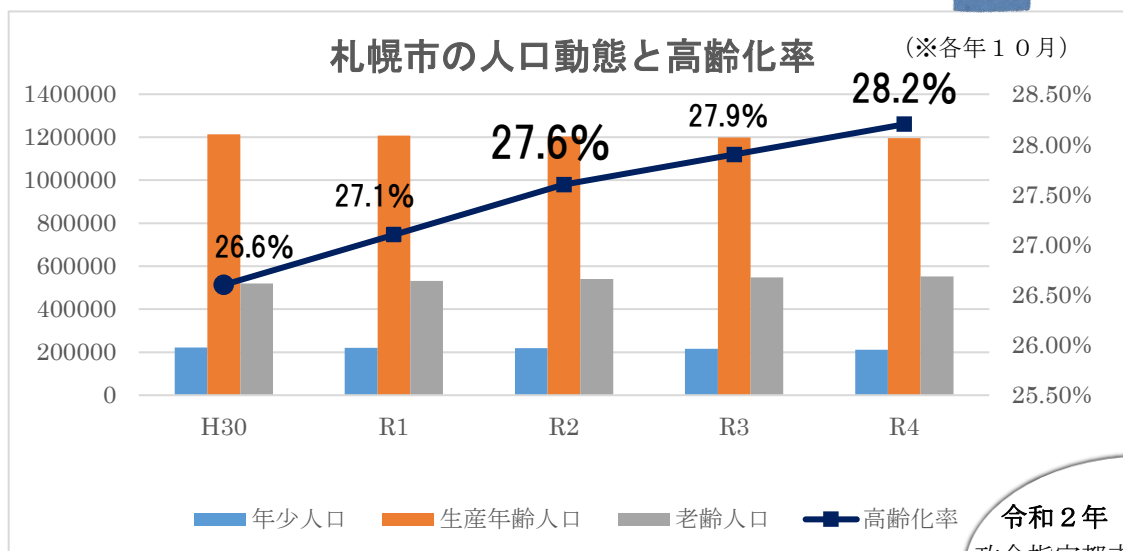


2022年

12月 

第21号

いまなぜ、支え合いが 必要なのでしょうか？



●札幌市の高齢化率は右肩上がり

高齢化率は、北海道、全国と比べて低い状況にありますが、今後は75歳以上の後期高齢者が増え、団塊ジュニア世代が65歳以上になる令和22年(2040年)には4割に迫ることが見込まれています。

●高齢単身世帯数は年々増加

一般世帯数に占める割合は、令和7年(2025年)には、おおむね7世帯に1世帯が高齢単身世帯となることを見込まれています。

(札幌市高齢者支援計画2021より一部抜粋)

ひとり暮らし世帯や支援を必要とする高齢者が増加する中、困った時には、制度やサービスだけでは解決できない、ちょっとした手助けが必要なことがあります。例えば、電球の交換、荷物の移動、買い物などです。地域のみんなで声を掛け合い、支え合うことができれば、地域に住む人の困りごとを地域の中で解決でき、誰もが住み慣れた場所で安心して暮らしていくことができます。

～このような地域の支え合いを進めていく事業を「生活支援体制整備事業」といいます。札幌市では平成29年から実施されることとなりました。～

地域のようす～生活支援コーディネーターの活動から～

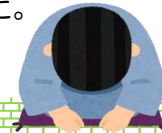
麻生地区

令和4年9月26日(月)「シニアサロンさくらんぼ」を訪問させていただきました。この日は、「ご近所先生」と麻生連合町内会の田中会長による、脳トレやゴルフゲームなどが行われました。コーディネーターも挑戦しましたが、脳トレはなかなか解けず、他の参加者に答えを教えてくださいました。みなさん、イキイキと活動されていました。



太平百合が原地区

令和4年11月1日(火)北王第七町内会の「元気アップCAFE」では北大落語研究会による落語寄席が開催されました。この落語寄席はコロナの影響により、3年ぶり4回目の開催になりました。参加した皆さんの楽しんでいる姿を見て、企画した福祉部の方も「開催できてよかった」と笑顔でお話をされていました。



拓北・あいの里地区

拓北市住団地体操教室と拓北ひまわり会館すこやか倶楽部を訪問させていただきました。パラリンピックの正式種目でもある「ボッチャ」が行われていました。生活支援ニーズについてもお話を伺い、「電球の交換」「高い所の物を取る」「荷物再配達の手続き」などが困るとお聞きしました。他にも、買い物はリュックに入る分だけしているなど生活の様子を教えてくださいました。



篠路茨戸地区

令和4年11月29日(火)「篠路まちづくりテラス和氣藍々」にて北区第2地域包括支援センターによる認知症サポーター養成講座が開催され、認知症への理解を深めました。高齢者が増えていく中、地域に住むみんなが安心して暮らせるような取り組みは、生活支援と同様に大切だと感じました。



「地域にこんな便利なサービスがあるよ」などの情報がありましたらお知らせください



【お問い合わせ先】
札幌市北区社会福祉協議会
札幌市北区北24条西6丁目北区役所 1階 ☎757-2482
担当)生活支援コーディネーター 村井田